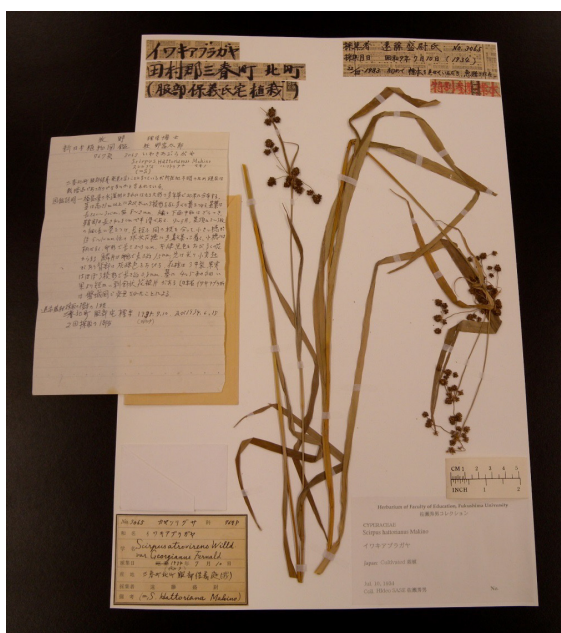


一枚の標本から広がる研究 イワキアブラガヤ展 プレ展示

2025 1/20 MON ▶ 2025 1/27 MON

ギャラリートーク（展示解説）予定
1月22日（水）12:30~12:50
希望者は展示前に集合して下さい。

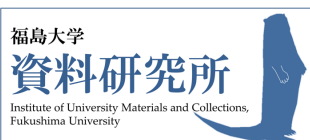


ごあいさつ

イワキアブラガヤは、福島大学の前身である福島県師範学校で植物学を学んだ服部保義が1925年に戸ノ口原で採集した標本に基づき、牧野富太郎が1933年に *Scirpus hattorianus* の学名をつけて発表したカヤツリグサ科の植物です。それ以外の場所では確認されることはなく、1939年を最後に現地でも確認できなくなり、消滅したものと考えられました。

地元の植物研究者が大切に保管していたイワキアブラガヤの1枚の標本が2003年に福島大学に寄贈され、学生や教員達の手により研究がなされ、実態の解明がされ、反響を呼びました。

本展示に先駆けて行う、今回のプレ展示では、イワキアブラガヤの一枚の標本であるFKSE4193をめぐる研究の物語について簡単にご紹介します。



2025（令和7）年1月
福島大学資料研究所 黒沢 高秀

展示の一部は、共生システム理工学類博物館実習の一環として受講生により制作されました